

いのち輝くいつせの里

前山小学校 校長だより

令和6年3月20日

文責 植木政行

『前山小学校の思い出～母校の小学校閉校に寄せて～』

前山小学校閉校記念実行委員会 記念誌事業部 秋山晃二

はじめに、母校の前山小学校が閉校になることに寄せて、寄稿する機会をいただきましたことを心から感謝いたします。小学校時代の思い出は、一生忘れることのない宝物です。

入学当時の前山小学校は、現在の校舎や体育館ではなく前の建物です。保育園を卒業し、小学校への入学は人生の大きなステップでもあり、当時のドキドキ、ワクワク感を今も鮮明に思い出します。もちろん運動会や社会見学、修学旅行などの特別な行事は楽しい思い出ばかりです。そして今、振り返れば毎日の学校生活の色んな事の方が懐かしく感じたりします。褒められた思い出はほとんどなく、友だちと大声で笑い、全力で走り、全力でいたずらをしたことで先生に思いっきり怒られたことは一番の思い出になっています。当時「昔」は今と色んな面で異なり、前山には子どもたちの姿がたくさん見られたような気がします。前山地域全部が自分たちの遊び場であり、自由な空間、子どもが走り回るには広すぎると思うくらいの地域でした。学校帰りにはランドセルも遊び道具の一つとなり、約1キロの帰り道を遊びながら帰ると1時間くらいかかったこともありました。

そんな子どもたちをいつも支えていただいたのは多くの先生方です。厳しくも温かい指導や優しさに触れ、私たちは気付かないうちに自信を育みました。

6年間、色々な先生方にお話になりましたが、私たちの学年は持ち上がりがなく、学年が大きくなるたびに新しい先生に担任をしていただきました。それぞれの先生方の教えのお陰により、今の私たちがあることに感謝いたします。

前山小学校は地域の中心的存在であり、いつも地域の方々との交流がありました。私たち小学生は地域のみなさんとの一体感の中で楽しく暮らした思い出があります。地域の方々の温かいご支援と、私たちへの愛情に心から感謝しています。

～閉校になる前山小学校に通う後輩たちへ～

「この小さくても大きな存在の小学校で過ごした時間は、一生忘れることのない貴重な宝物です。たくさんの思い出を作り、たくさんの友だちと出会い、そして夢を追いかけてください。閉校になっても、この学び舎の魂は、かけがえない財産となり、私たちの心の中で永遠に輝き続けます。」

私たちが過ごした前山小学校は、特別な場所でした。この機会を通じて、私たちの思い出を共有し、感謝の気持ちを伝えることができたなら幸いです。閉校になる前山小学校への感謝の気持ちは、私たちの中でこれからも輝き続けます。また、これからも閉校になった小学校の名前と共に、誇りを胸に生きていきたいと思えます。ありがとう、そしてさらなる幸せを願って。



卒業記念写真



復興砂防公園について前山っ子に説明（令和元年）

『前山小学校時代の思い出』 前山小学校同窓会 副会長 近藤正俊

私が小学校に入学したのは、今から69年前の昭和30年です。入学時の同級生は56人でした。殆どの同級生は初対面で、どのように接したらいいのか何もわからず大変心細い思いをしましたが、「案ずるより生むが易し」のとおりすぐに友だちもできました。

入学当時は木造建築の校舎で、薪を担い本を読んで歩いている二宮尊徳（金次郎）の像が建っていた古びた校舎でした。そして、4年生の頃と思いますが、鉄筋コンクリート製2階建ての新校舎（現校舎の前の校舎）が完成しました。屋上ではドッジボールなどをして遊びました。

私は1月生まれの早行きで、運動能力も同級生より劣っていたように思いますが、遊ぶことが大好きな子供でした。前山川も今とは違い堰（せき）や堤防も石積みで竹やぶなどが点在し、自然そのものでした。特に川は一番の遊び場所だったように思います。竹を切り竿を作り、毎日のように釣りに行っていました。モト、ハヤ、カマス、フナ、ナマズ等々多種多様な魚を釣りました。特に印象に残っているのは、5月～7月の雨上がりの後の少し川が濁っている時、針にミミズを付け流していると急に重くなり、ゴミかなと思いつくりに寄せてくると、30～40cm程のナマズが掛かっています。高学年になると近所の友人を誘い、巻網でハヤ、モト、アユ獲りをして遊びました。獲れた魚はほとんど持ち帰り、食べていました。

田や畑も今のように整地されず大小様々な形をした農地で、農繁期になると学校は休みで、家の手伝いでした。当時は田植機やコンバイン等の機械はなく、全て手作業でした。田植時期には苗運びやシュロ縄を一定間隔に引く（苗の間隔を揃えるため）などの手伝い、稲刈りシーズンは全て手鎌で刈り取りを行い、小さな束にして稲木にかけ荒乾燥をする手伝いをしました。田畑を耕すのは、牛に鋤（すき）を引っ張らせ、土を反して耕していました。どの農家にとっても牛は欠かせない存在でした。私も一度だけ小さい田を鋤いたことがあります。なかなか思うように鋤けず、四苦八苦した記憶が残っています。

山について、昔は今のように電化製品もなく、エネルギーの殆どが山の木材や木炭でした。冬になると山の落ち葉集めをし、特に赤松の落ち葉が焚き付けのもとになり、クマデで集め家へ持ち帰りました。柴や割木づくりは親の仕事でした。秋は松茸狩りのシーズンで、大きな竹かごを持ち近くの山に出かけました。多くの松茸を持ち帰り、焼き松茸やすき焼きにして美味しく頂いた記憶もあります。今では夢のようです。小学校では石炭用のダルマストーブが各教室にあり、当番になると焚き付けを抱え学校に行きました。お昼の弁当もこのストーブで温めて食べました。冬に雪が降るとスキーやソリを作り、野山を駆け巡って遊んだ記憶も鮮明に思い出します。

上記は小学校時代の思い出を主に記してきました。今はガスや石油があり、パソコン・スマホ・タブレット等の電化製品も揃い、農業分野では、田植機、トラクター、コンバイン等も普及し随分様相が変わりました。簡単に意思疎通が取れるようになり、煮炊きや風呂で薪を使うこともなくなり（暖を取るための薪ストーブや再生エネルギーとして使うのは別です）、農作業に係わる手作業もなくなりました。しかし前山では、5月10月の大祭、粥占い、初午、山の神、亥の神、お日待ち、七五三等、昔の伝統が多少姿を変えながらも引き継がれています。また小学生は地域の人達との交流も沢山あります。

基本的に前山の良き自然は残っています。このような環境で育まれた皆さん、前山小学校は閉校となり竹山小学校が新設されます。新しい出発です。

人との関わりを深め、それぞれの個人を大切に、思いやりのある人になって欲しいと思います。人には得手不得手があります。運動が好きな人、勉強が好きな人、遊びの好きな人、人のやりたいことは様々です。やりたいことを精一杯頑張ってください。必ず未来は開けます。前山っ子頑張れ、幸多かれと祈っています。



1年生高浜海水浴



3年生春



6年生卒業式